

## はじめに

地域の識字・日本語教室では、さまざまな目的をもった方々が、地域社会の中で自立して生活するために、年齢、職業、母語や文化などさまざまな違いを超えて、お互いの文化や生き立ちを理解し合い、助け合いながら、文字の読み書きや日常の会話の学習に取り組まれています。

そのような地域の識字・日本語教室を担っている多くの方は日本語教育の専門家ではなく、市民ボランティアとしての学習支援者であり、学習者に寄り添い、学習者の興味や関心のあることからや、日常生活での疑問などを題材に取り入れ、学習者のニーズに合わせた学習活動を行っています。

平成29年度の調査では、大阪府内の約200の教室で、約5,200人の学習者が約2,900人の学習支援者とともに学習活動を行っています。教室からは、「学習者の増加に対し学習支援者が不足している」や「個々の学習者に適した教材が不足している」といった意見がありました。

大阪府では、こうした状況において、地域の識字・日本語教室の一助となるよう、国、市町村及び関係機関と連携を深めて教材の開発・提供、学習支援者の養成などに取り組んでおり、令和元年度には、初級学習者向けの日本語学習教材として、『きいてまねしてはなして－「わたしたちが語る」20のエピソード－』を作成いたしました。そして今回、聞く、話す、読む、書くといった活動を通じて、「自分」・「生活」・「文化」・「地域」について、わかりやすく伝えることをめざす中級学習者向けの教材を作成いたしました。

『きいてまねしてはなして－「わたしたちが語る」20のエピソード－』と同様に、多くの方が学ばれている府内の識字・日本語教室でこの教材が活用され、学習者と学習支援者がともに学びを深められることを期待しています。

最後になりましたが、この教材作成にご協力をいただきました皆さまに改めてお礼を申し上げます。

令和3年3月

おおさか ぶ ぎょういくちやう  
大阪府教育庁  
し ちやうそんぎやういくしつ  
市町村教育室  
ち いきぎやういくしんこう か ちやう  
地域教育振興課長